栄ちゃんの 熱血 演歌塾 『男の桟橋』編

別れの悲しみを背負った男が、海辺のほとりの桟橋で帰る筈の無い思い人を待ち続ける男の心情を歌います。歌謡曲の従来のパターンでは旅する男を女は港で待つ。或るいは、港を出て行く男を女は寂しさを堪え、ついて行きたい気持を胸に涙にくれながら見送る。男は不実な慰み言葉を口に上せ、海の彼方へ去っていく。こんなストーリーの展開が一般的です。
”別れのブルース”や”アンコ椿は恋の花”” 女の港” 私の歌では” 雨の港” 等が典型的なおんな歌のパターンですが今回は真逆のシチュエーションになります。
夕暮れ近く陽が沈みかけた頃、桟橋に佇む男の眼には、大漁旗をはためかせて母港に戻る船や、ねぐらを急ぐカモメの姿も映らない。
やがて港のほとりの居酒屋にも灯りが点り始め、二人で愛を育んだ楽しい日々が男の胸に繰り返し蘇える。二人が出会い、過ごした愛の日々は幻想なのか、男と女のそれぞれの幸福感の落差の大きさをたった一通の置手紙で知らされ、以来、女の消息と別れに至るその女の心情に思いを巡らし煩悶している。そんな歌の舞台と男の心情をイメージしながら、イントロ（前奏）が流れます。時間にして数十秒ですがこの時間は大切です。
今から歌う歌のエッセンス（本質）が音にちりばめられています。
岸壁に引いては打ち返す波頭を思い浮かべて！
メジャー（長調）で書かれたこの歌は明るく又、リズムの乗りを大事に歌いましょう。別れ歌なのになんで明るく歌うの？良くこんな質問を受けますが、女が自分の許を去って二年が経過した訳です。悲しみの極みをその時間が和らげてくれます。寂しさは勿論ありますが居酒屋を前にすると楽しかった日々が男の脳裡に次々と思いうかびます。
そんな心情で歌い出します。

作詩　たきのえいじ　作曲　筑紫竜平
編曲　南郷達也

船もなければ　カモメもいない
酒場は未練の　船着場
あれから二年　別れて二年
今も気になる　身を責める
まぶた閉じれば　おまえが浮かぶ
呑んでわびてる　男の桟橋

● 〜船も無ければカモメもいない〜
明るいトーンで歯切れよく歌い出します。〜カモメも〜のカの前のブレス（息継ぎ）を特に深く！〜いない〜でいきなりこの歌でトップの音程（高さ）に成ります。
それに〜いない〜の後も４拍（一小節）の長さを延ばしますから呼吸に余裕が無ければバイブレーションもかけられません。又ここは〜無ければ〜の後のブレス（息継ぎ）の時間が特に短いので素早く効率よくブレスする事。これが大事です。この技術をマスターすれば他の歌を歌う時にも応用できますから短時間で深く呼吸する事を意識して下さい。
● 〜酒場は未練の船着き場〜
最初の一行目に較べるとメロディラインはレガート（なめらか）に成り、この二行目は言葉のインパクトより声の響きを大事にする感じです。伸びやかな艶やかな声と言う感じです。
感情（寂しさや切なさ）を入れる所ではありません。後半でたっぷりありますからここは軽快さと声のなめらかさを強調しましょう。
● 〜あれから二年別れて二年〜
ここはリズムを明確に刻んで歌う事が肝要です。
● 〜今も気になる身を責める〜
ここからはいよいよサビに入ります。〜気〜と〜せ〜の言葉を特に強調しましょう。そして〜める〜は一行目の最後〜カモメもいない〜と同じ感じのバイブレーションをたっぷりかけましょう。
さざ波が寄せては返す様をイメージして下さい。繰り返し繰り返し彼女の姿が脳裏に浮かびます。
気持が高揚してきます。
● 〜瞼閉じればおまえが浮かぶ〜
車の運転で言えばここでギアチェンジします。波の彼方に声も届けと言う感じに大きく歌い上げます。
ここの二行が男の思いの丈をぶつけるところです。言葉のニュアンスで言いますと〜おまえが浮かぶ〜は優しくソフトにという感じがありますがここも敢えて歌い飛ばす感じで！
● 〜飲んで詫びてる〜
ここがこの歌の中で唯一寂しさや切なさを歌う所です。声よりも悲しみに満ちた感情を前面に出します。
但し言葉は明確に。前行で歌い飛ばすと言いましたが、ここでは男の未練に悩む心情をより強調し、これまでの表現と違ってその落差を歌い上げる事で男の心情を鮮明に浮かび上がらせます。
技術的に言いますと声を横に揺らす感じです。特に〜わびい〜のところはファルセット（裏声）に切り替える感じです。この一行はピアニッシモ（弱く）に表現する訳ですが、言葉だけは明確に！
もっと言うなら声を搾り出す感じです。しかし粗野であってはいけません。
ファルセットですから当然頭部の共鳴だけを使います。
● 〜男の桟橋〜
ここはタイトルにもなっていますから大きく堂々と歌い上げましょう。
〜男の〜は前行とは対照的に胸声（胸部に響かせる）を強調して下さい。〜桟橋〜ここは今までで一番大きな波が打ち寄せる様を最後のバイブレーションで表現して下さい。悲しむ心情も織り交ぜて！
全体に明るい声と淋しい感情を表現するシーンがめまぐるしく展開されます。落差を使い分ける事を意識して歌い上げる事がこの歌を歌うコツです。
男歌の持つダイナミックな展開をむしろ楽しむような気持でこの物語を仕立て上げて下さい。